

かしこく
やさしく
たくましく

宝島だより

<http://www.toshima-sc.net/takara/>

十島村立宝島小・中学校
児童・生徒数 23名
学校だより 9月号
令和3年9月15日発行

人間の持つ限りない可能性

校長 下村 尚

8月24日から9月5日までの13日間、東京パラリンピックが開催されました。コロナ禍で、開催自体が1年間延期となりましたが、無事に終了することができて、本当に良かったと感じました。

普段の生活やメディアの中であまり触れる機会が少ない障害者スポーツですが、この夏はパラリンピックでいくつかの競技をテレビで見ることが出来ました。

パラリンピックで行われた全22種目のうち、「車いすラグビー」の試合を見ていて、ある事に気づきました。日本チームに女性の選手が一人混じってプレーをしていたことです。男女別で参加する他の種目もありますが、これは車いす競技で唯一タックル(車いすごとぶつかる)が認められている男女混合の競技で、激しいタックルによって車いすごと転倒したり、タイヤがパンクしたりしていました。

その激しさゆえ「殺人球技」と呼ばれるそうです。怪我防止のため選手の体つきはかなりたくましく見えました。そんな選手の中に、相手の進行を阻むブロックをしたり、車いすごとタックルをしたりする女性の選手(倉橋 香衣【くらはし かえ】)に思わず応援の力が入りました。日本チームは、準決勝でイギリスに敗れましたが、3位決定戦で前回の王者オーストラリアに予選に次いで勝利し、リオ大会に続いて銅メダルを獲得しました。



日本チームにいた倉橋選手について、私が在籍していた大学からの広報誌に1年前掲載されていたのを思い出しました。

倉橋選手は、体育の教師になることを目指し大学の教育学部に在籍し、トランポリン部に所属していました。3年生の春、試合前の練習中に事故が起き、頸髄損傷で車いすの生活となり、四肢に麻痺が残る生活となったそうです。

3年間に及ぶリハビリの中で車いすラグビーと出会ったそうで、「危ないから」という制限のある車いすの生活の中で、「ぶつかっても怒られなくていいな」、「楽しい」、「もっとこの競技を知りたい」という気持ちで、どんどん車いすラグビーにのめり込んでいったそうです。

大学に復学後、「とことんやりたい」という思いで車いすラグビーのクラブチームに入団。大学卒業後は、企業にアスリート枠で入社。コロナで1年延期となりましたが、今回のパラリンピックへ日本チームとしてベンチ入りするだけでなく、試合でもチームに貢献するプレー。本当に頭が下がる思いです。

その他にも、両腕のないエジプトの卓球選手。足を使って玉を挙げ、ラケットを口でくわえてプレーをする。「無理」ではなく、「こうすればできる」、「こうやってできるようになる」という人間の限りない可能性を感じたパラリンピックでした。

2学期も限りない可能性を秘めた児童生徒とともに、宝島小中学校への御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

「書くことは宝なり」 From 校長室

校長室前に掲示してある「オセモコ」に、家にテレビがない昭和のはじめ、当時子供に人気のあった「黄金バット」など紙芝居が流行したのですが、中国やアメリカと戦争が始まると国の考え方や政策を都合よく宣伝し、国民に戦争協力を求める内容に変わっていったと記載されています。

1学期の終わり、小学5・6年生とたんぽぽ学級では、ゲストティーチャーの松下傳男さんから戦時中の宝島の様子を学ぶ平和学習を行いました。学習した内容を振り返り、5年生の松元大樹さんの感想が南日本新聞の「若い目」に掲載されました。



オセモコの記事

昭和20年4月、当時小学6年生だったときに、宝島が空しゅうを受けた。宝島には軍の施設である兵舎があったこと、当時の海沿いの砂浜に勿機(むぎ)の軍用機が不時着したことも、空しゅうを受ける原因になった。宝島の築物の3分の1も、空しゅうの恐ろしさや失うものの悲しさを話

聞いた頃は、大変おどろいた。今、ぼくが住んでいるこの自然豊かな宝島が空しゅうを受けた様子も、とても想像できなかった。

最後に、元校長さんには「平和を願い、愛する子どもになつてほしい」と話された。ぼくは戦争は体験していないけれど、空しゅうの恐ろしさや失うものの悲しさを話の中から強く感じることもできました。(十島村)

「若い目」松元大樹さん

第74回宝島大運動会に向けて

大変うれしいご報告があります。念願でありました本校校庭のトラック整備が、10日(金)に行われ、整備が完了しました。トラック整備には重機が必要であったことから、前田昭利さんが建設会社の竹山建設に依頼していただき、重機3台を用いたトラック整備が実現しました。また、整地には土も必要であったことから、トラック2台分の土も運んでいただきました。土の中に石が混在していたため、子供たちと職員でふるいにかけながら石の除去作業を行いました。


整地作業には、前田昭利さんのほかに廣瀬純二さんと竹山建設の社員の方々も加わっていただき、すばらしいトラックに仕上がりました。運動会当日は、参加者の皆さんによる昨年を上回る力走と演技が楽しみです。紙面からではございますが、トラック整備に関わっていただきました皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

なお、本年度の運動会も昨年同様、コロナ対策を万全にして実施いたします。当日朝の検温、マスクの着用(競技以外)、ソーシャルディスタンスの確保等にご協力ください。また、島外の方の参加はご遠慮いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



重機による整地作業(上)
土をふるう子供たち(下)

9・10月の行事予定表

- 20日(月) 敬老の日
 - 21日(火) みかんとも一れ、十五夜
 - 23日(木) 秋分の日
 - 28日(火) 運動会予行練習
- 

- 1日(金) お弁当給食
- 3日(日) 第74回宝島大運動会
- 4日(月) 振替休日
- 8日(金) 高校説明会(TV 会議システム)
- 9日(土) トカラ集会(諏訪之瀬島)
- 12日(火) 中間テスト